



# 薬注タンク・薬注タンクHD

## 取扱説明書

### 取扱い・使用上のご注意

「塩酸」はガスが発生しますので、ご使用できません。



営業本部 関西営業所 Tel: 06-6412-5851 Fax: 06-6413-1803  
〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町86番地

仙台営業所 Tel: 022-390-7210 Fax: 022-287-5655  
〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井7丁目20-13

関東営業所 Tel: 03-5959-0883 Fax: 03-5959-0880  
〒114-0016 東京都北区上中里2丁目37番3号

中部営業所 Tel: 052-679-5340 Fax: 052-679-5341  
〒456-0013 名古屋市中区外土居町9番14号(トキワ外土居ビル)

九州営業所 Tel: 096-293-0200 Fax: 096-293-0301  
〒869-1236 熊本県菊池郡大津町杉水字一ノ迫3019-1

#### ●●● グループ会社 ●●●

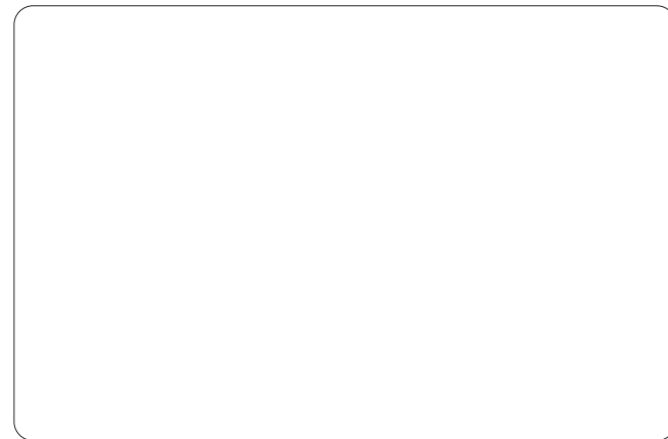
東北スイコー株式会社  
Tel: 0197-66-5055 Fax: 0197-66-5054  
岩手県北上市村崎野14地割455番地11

北海道スイコー株式会社  
Tel: 011-398-5510 Fax: 011-398-5522  
北海道札幌市西区宮の沢1条3丁目4-12

製品のCAD図面は弊社ホームページよりダウンロードして頂けます。

URL: <http://www.e-suiko.co.jp/>

#### ■ 販売店



・製品は印刷により、多少実物と異なる場合があります。  
・カタログ記載事項は改良のため、お断りなく一部変更する場合があります。

# 薬注タンク (標準型・青)

# 薬注タンクHD (高比重対応型・黒)

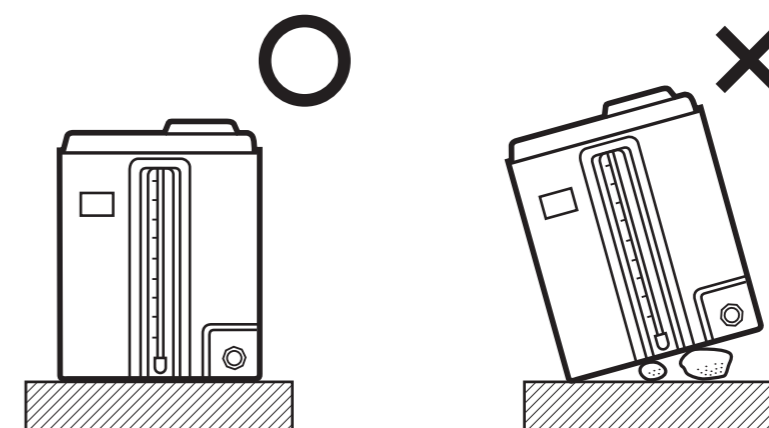
注意事項	P.01
据付け時のご注意	P.02
配管時のご注意	P.03
使用上のご注意	P.04
保守点検について	P.05
保証について	P.05
耐薬品性一覧表	P.06

## 1 注意事項

- 製品の破損に繋がりますので、製品への衝撃及び落下にはご注意ください。
- 製品は設置用として設計されております。液体を入れての移動及び移送には使用できません。
- 液面上限シールを超えての使用はできません。  
液面計の上部は開放されているため液があふれる可能性があります。
- 薬品種類・濃度・液温等の使用条件を変更する場合は当社にご相談ください。  
耐薬品性等を確認いたします。  
また使用条件に問題がなくても洗浄が不十分な場合、反応熱や有害なガスが発生し重篤な事故に至る可能性があります。

## 2 据付け時のご注意

- 荷受時の点検
  - ・タンク・付属部品に輸送中の破損が無いか確認して下さい。
  - ・ステンレス製補強枠の養生シートはタンク到着後速やかに剥がして下さい。時間が経つと剥がれにくくなります。
  - ・付属部品は別梱包になっていますのですべて揃っているか確認して下さい。(タンクの中に部品を入れて納入する場合があります。)
- 設置について
  - ・全面支持の基礎面となっていることを確認して下さい。基礎面は平滑で突起が無いことを確認して下さい。

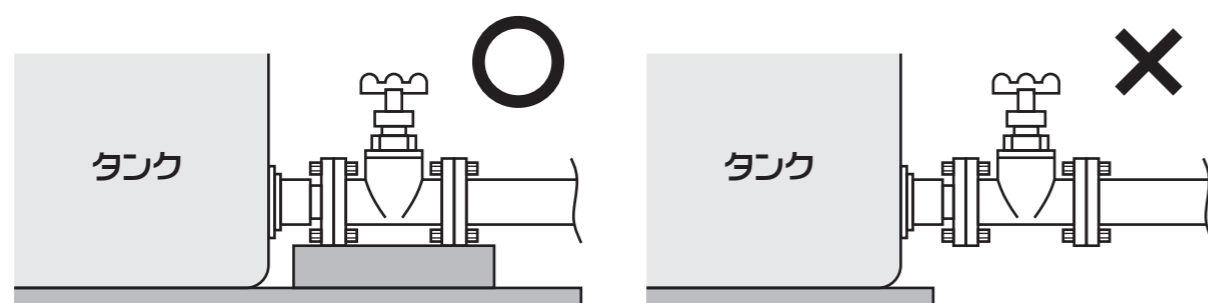


- ・タンクの寸法公差が±1.5%あるので、アンカーボルトの先打ちはしないで下さい。
- ・直射日光が当たる場所や高温雰囲気内では変色や劣化をすることがあるので、設置・保管はしないで下さい。
- ・埋設しての使用は土圧によりタンク変形が生じるためできません。

## 3 配管時のご注意

### ■配管について

- ・ポリエチレンタンクは液の増減や温度変化等により膨張・収縮が起こります。配管を完全に固定するとノズル取り付け部分に負荷がかかり、変形破損の恐れがあります。側面及び天面のフランジ接続は直接負荷が掛からないよう、全てのフランジに伸縮継手を取り付けて下さい。
- ・側面フランジにバルブ・計器等の重量物を取り付ける際は下図のようにサポートを取り、側面フランジに負荷が掛からないようにして下さい。



- ・フランジ接続の際は相互の中心を出して取り付けて下さい。
- ・フランジの締め付けボルト・ナットは均等に締め込んで下さい。
- ・ポリエチレンタンクには寸法公差があるため鋼管やライニングの配管を使用する際はご注意ください。

### ■部品（付属品）について

- ・タンクに取り付けたフィッティングは輸送中にナットが緩むことがあります。組み立て・配管前に必ずゆるみがないことを確認して下さい。
- ・フィッティングのナットを締めるときは半時計方向に回して下さい。ナットを締めすぎるとネジが破損する恐れがありますのでご注意ください。
- ・ツバ付フランジをフィッティングに取り付けるときはツバのパッキン全面が当たるようにねじ込んで下さい。
- ・オスネジにはシールテープを巻いて下さい。
- ・輸送中や荷下ろし、設置作業中についた補強枠等金属部品の塗装部の傷は、同送のタッチアップペイントで補修して下さい。

## 4 使用上のご注意

### ■使用温度

- ・40℃以下 ※希釈・溶解時の反応熱においてもこの範囲内として下さい。

### ■液比重

- ・薬注タンク（標準型・青） 1.3以下
- ・薬注タンク（標準型・青）補強枠付き1.6以下
- ・薬注タンクHD（高比重対応型・黒） 1.678以下

### ■エア抜き

- ・大気圧でのご使用を原則とします。
- ・密閉状態を防ぐためハンドホールに隙間を設け、液面計の上部は開放されています。
- ・液を投入・排出する際は加圧・減圧がかからないようにハンドホールを緩めて下さい。
- ・タンクにエア抜きノズルを加工している場合はハンドホールの代わりに開放して下さい。

### ■液面計

- ・液を入れる際はゲージバルブを開放して下さい。

### ■水張りテスト

- ・ご使用前には水張りテストを行いタンク・ノズル・配管接続部からの漏れが無いことを確認して下さい。
- ・水張りテストに使用した水は完全に除去して下さい。
- ・薬品（特に硫酸など）によっては残った水と反応して発熱を起こし、タンクの変形・破損等の事故につながる恐れがあります。

### ■火気について

- ・タンクはポリエチレン製です。熱に弱いので火気を近づけないで下さい。
- ・エンジン等、高温になるものをタンクに近づけないで下さい。タンクの変形・穴あきの原因となります。

## 5 保守点検について

- 薬液を入れ間違えると有毒ガスが発生し大事故の原因にもなりますので、ご注意ください。
- 点検の際は必ず使用している薬品に応じて保護具（ゴム手袋、マスク、保護メガネ、耐薬液作業服など）をご着用下さい。
- タンク内部や継手部分などは3ヶ月に一度、定期点検を行うようにして下さい。

### 点検項目

- タンクの固定状況（アンカーボルト等）や、据付け部の状況（基礎等）に異常がないか確認して下さい。
- タンクのひび割れ、変色、変形などがなく確認して下さい。
- 液面計上部及び液面計に液漏れの形跡を確認された場合、ハンドホールが密閉になっている事も考えられます。ハンドホールを開けてご確認下さい。
- 薬品投入の際ハンドホール周辺に薬液をこぼしてしまった場合、その液が液面計上部より管を伝い流れ落ち、液面計下部に液漏れが生じているように見えることがあります。漏れを確認された場合は拭取りにてご確認下さい。

## 6 保証について

### 保証規定(保証期間と保証範囲)

#### ■保証期間

保証期間については、納入日より1年と致します。

#### ■保証範囲

上記保証期間中に問題が生じた場合は、無償にて修理又はその代替品を速やかに納入いたします。

但し、次に該当する場合は、この保証範囲から除外させていただきます。

- (1) 天災地変、不可抗力、取扱説明書に則さないご使用により欠陥が生じた場合。
- (2) 製品の誤使用や取り扱い不備、使用者の故意・不注意による故障又は損傷の場合。
- (3) お客様自身による修理や改造に起因する故障又は損傷の場合。
- (4) 納入後、金属部に発生した錆や腐食の場合。
- (5) その他弊社の責任によらない故障又は損傷の場合。

## 7 耐薬品性一覧表

- ・下記一覧はタンク原料であるポリエチレンの耐薬品性です。
- ・混液の場合はこの限りではございません。
- ・使用可否は液比重など使用条件により異なる場合がありますのでご確認下さい。
- ・疑問がある場合が実証テストによりご確認されることをお勧めいたします。
- ・「△」は使用環境により急速に劣化する恐れがあり、2年未満での交換が必要になる場合があります。

※1 「塩酸」はガスが発生するため使用できません。希釈用途でのみご使用下さい。

※2 薬注タンクHD（高比重対応型・黒）で「次亜塩素酸ナトリウム」は使用できません。

薬品名	20℃	60℃	薬品名	20℃	60℃
アセトン	×	×	臭化水素酸	○	○
アンモニア水	○	○	次亜塩素酸ナトリウム(12%)※2	○	○
亜硫酸ナトリウム	○	○	写真用現像液	○	○
エチルアルコール	○	○	水酸化アルミニウム	○	○
エチレングリコール	○	△	水酸化ナトリウム	○	○
塩素水	○	△	石油	×	×
塩素酸カルシウム	○	○	炭酸マグネシウム	○	○
塩酸(<35%)※1	○	○	炭酸ナトリウム	○	○
塩化アルミニウム	○	○	テレピン油	×	×
塩化カルシウム	○	○	トルエン	×	×
塩化銅(I)	○	○	動物油	△	×
塩化銅(II)	○	○	ひまし油	×	×
塩化ナトリウム	○	○	ブチルアルコール	○	○
過酸化ナトリウム	○	○	フェノール	×	×
過酸化水素水	○	○	ブドウ糖	○	○
海水	○	○	フッ化水素酸(<60%)	○	○
干酸	○	○	フッ化水素酸(70%)	○	△
キシレン	×	×	ベンゼン	×	×
牛乳	○	○	ベンジルアルコール	×	×
クロロホルム	△	×	ホウ酸ナトリウム	○	○
クロム酸(電解液)	○	○	メタノール	○	○
クロム酸(10~20%)	○	×	硫酸(10~60%)	○	○
クエン酸	○	○	硫酸(75%)	○	△
クレゾール	△	×	硫酸(98%)	△	×
グリセリン	○	○	硫酸アルミニウム	○	○
鉱油	×	×	硫酸銅	○	○
サリチル酸	○	○	硫酸鉄(II)	○	○
酢酸(1~10%)	○	○	硫酸マグネシウム	○	○
酢酸(10~60%)	○	△	硫酸ニッケル	○	○
酢酸(60~100%)	△	×	硫酸ナトリウム	○	○
硝酸(<25%)	△	×	硫酸アンモニウム	○	○
硝酸(25%<)	×	×	硫化ナトリウム	○	○
硝酸アンモニウム	○	○	リン酸	○	○
硝酸カルシウム	○	○	リン酸カルシウム	○	○
シユウ酸	○	○	リン酸ナトリウム	○	○
植物油	△	×			